

2022年12月5日 全8頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/12/5号）

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

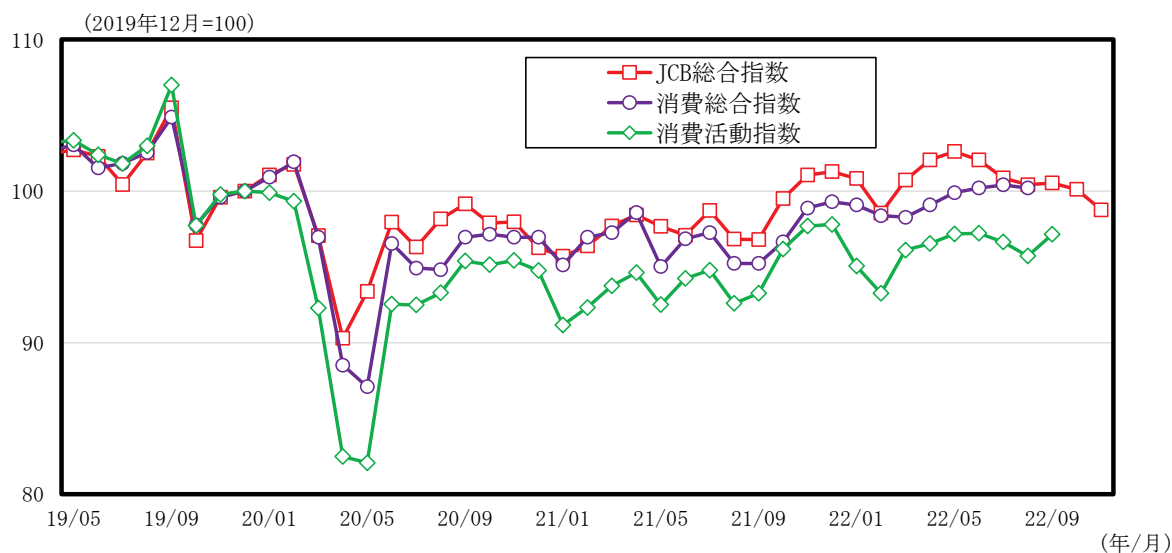
[要約]

- 2022年10月の消費は財・サービスともに前月から増加した。消費増税前の駆け込み需要の反動減により2019年の水準が低い点には留意が必要だが、財消費のうち百貨店大手3社の売上高やアパレル各社の既存店売上高は、新型コロナウイルス感染拡大前である2019年同期比で前月から伸び率が上昇した。新車販売台数は前月から大幅に増加した。サービス消費のうち、新幹線輸送量や旅客輸送量は2019年同期比で見たマイナス幅が前月から縮小した。宿泊需要や外出需要は、全国旅行支援やGo To Eat事業の開始の影響もあり前月から回復した。
- 11月の消費は、回復傾向には足踏みがみられるも、前月からおおむね横ばいで推移したとみられる。財消費のうち、百貨店大手3社の売上高やアパレル各社の既存店売上高は天候要因もあり、感染拡大前である2019年同期比で前月から伸び率が低下した。11月の新車販売台数は前月から減少した。サービス関連のうち、新幹線輸送量は北陸新幹線以外では2019年同期比でマイナス幅が前月から横ばい圏で推移した。小売店・娯楽施設の入出は感染「第8波」の影響もあり前月から小幅に減少し、感染拡大前の2019年同月の水準を5%程度下回って推移した。こうした動きを反映して、サービス消費は回復がわずかに減速したとみている。

<消費全体の動き>

- ◆【JCB 総合指数】 11 月前半の JCB 総合指数¹（大和総研による季節調整値）をもとに 11 月の消費の伸び率を推計すると、前月比▲1.3%となった。財・サービスともに前月から減少した。

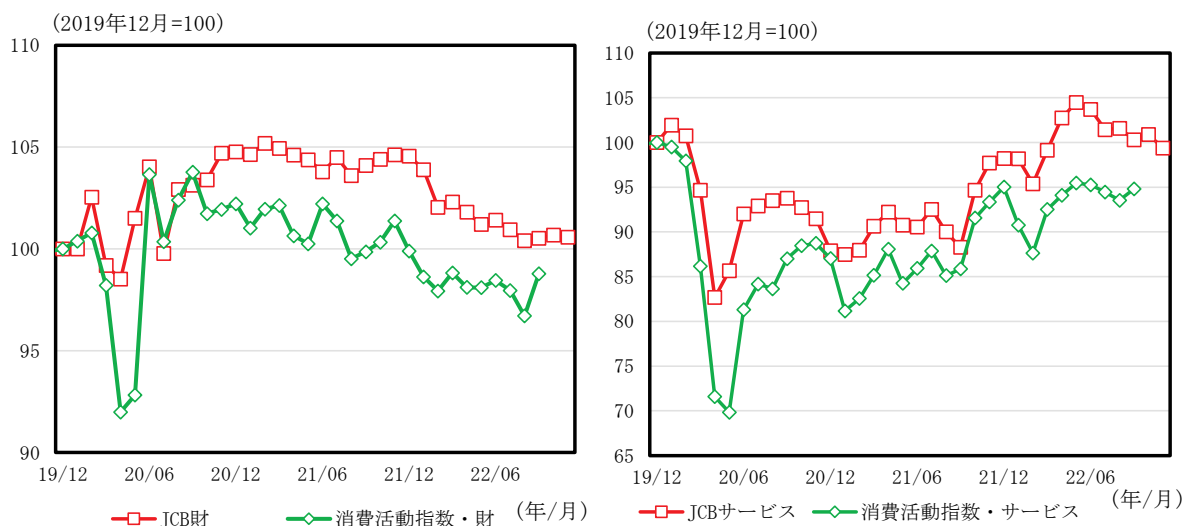
図表 1：消費総合指数・消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



(注 1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(注 2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

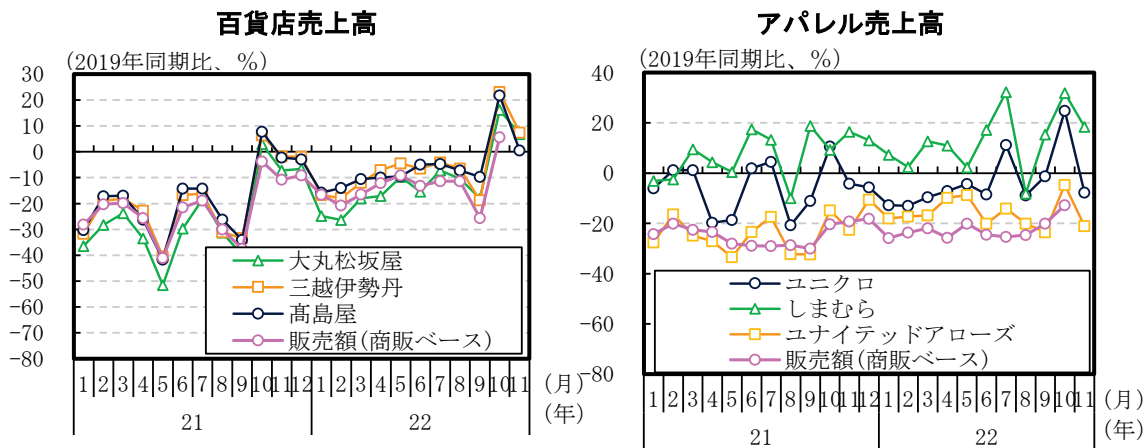
(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

<小売関連>

- ◆【百貨店】 大手 3 社の 10 月の既存店売上高は、新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年同期比で伸び率が前月から増加し、同約 2 割増。ただし、消費増税前の駆け込み需要の反動減により 2019 年の水準が低い点には留意が必要。11 月は 3 社とも伸び率が低下。月後半の平均気温が平年よりも高いといった天候要因がマイナスに働いた。
- ◆【アパレル】 10 月のアパレル各社の既存店売上高の伸び率は、3 社とも感染拡大前である 2019 年同期比で前月から上昇。11 月は 3 社とも前月から低下。月後半の平均気温が平年よりも高く、アウター衣料やニットなどの冬物商品の売上が伸び悩んだ。

図表 3：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユニテッドアローズはネット通販を含む数値。

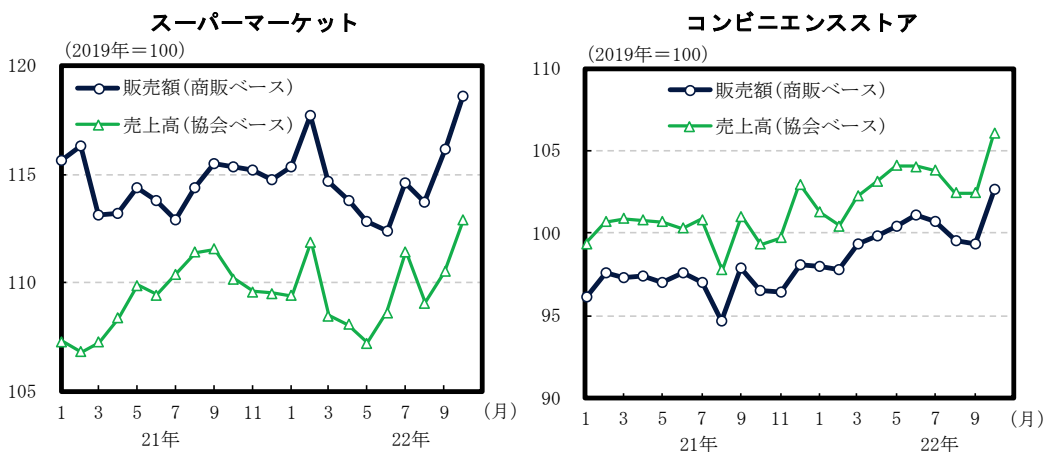
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、20年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「衣服・身の回り品卸売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 10 月の売上高は前月比+2.2%（大和総研による季節調整値）。生鮮や総菜などの食品が増加。
- ◆【コンビニエンスストア】 10 月の売上高は前月比+3.5%（大和総研による季節調整値）。行楽需要の増加などによりおにぎりなどの日配食品などが増加。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高



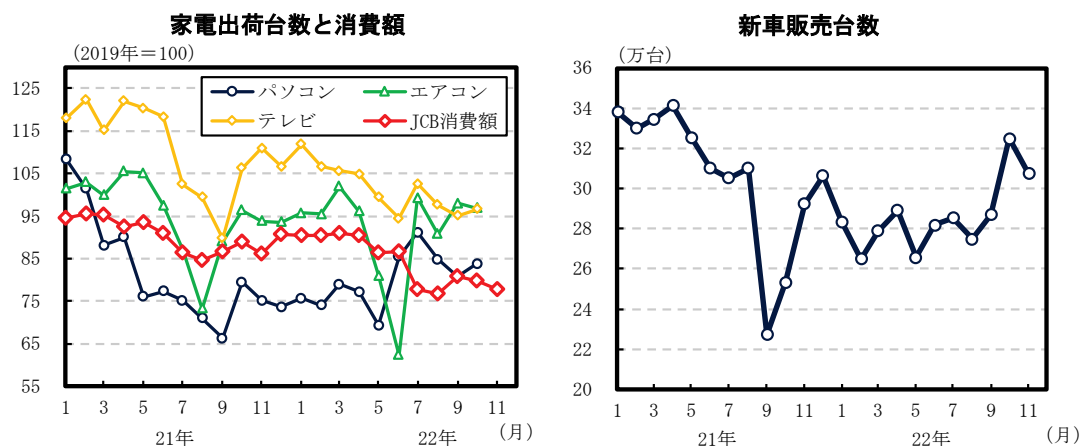
(注) 売上高(協会ベース)は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

◆【家電】 10月の出荷台数はパソコンが前月比+3.7%、テレビが同+1.5%、エアコンが同▲1.2%（大和総研による季節調整値）。11月のJCB消費額は同▲2.3%と前月からマイナス幅が拡大。

◆【自動車】11月の新車販売台数は前月比▲5.4%と前月から減少（大和総研による季節調整値）。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。22年11月分は11月前半データをもとに伸び率を推計。

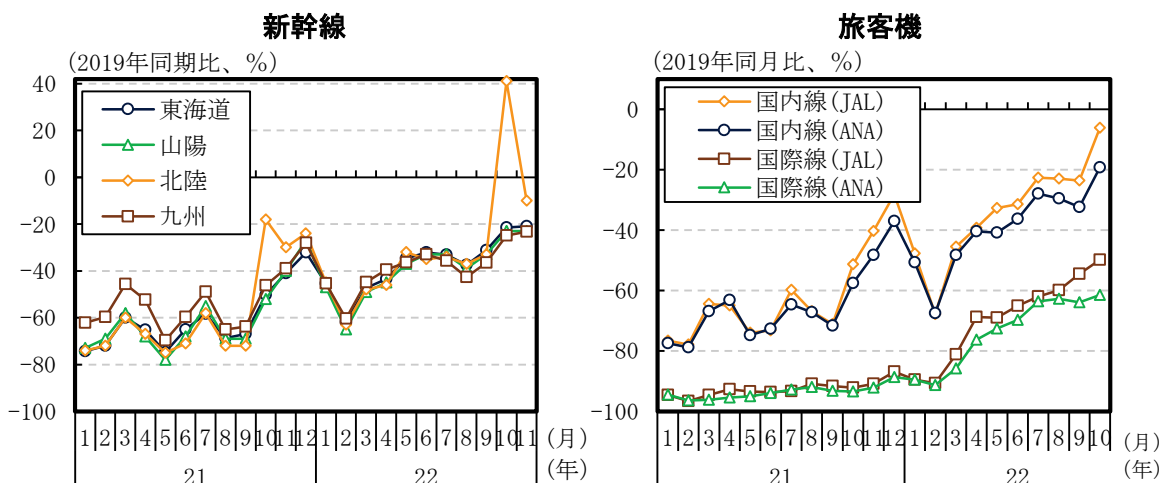
(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<サービス関連>

◆【新幹線】10月の輸送量は感染拡大前である2019年同期比で各線とも前月からマイナス幅が縮小。11月は北陸新幹線以外では輸送量が同2割減程度と、マイナス幅は前月から横ばい圏で推移。

◆【旅客機】10月の国内線輸送量は感染拡大前である2019年同月比0~2割減と前月からマイナス幅が縮小。国際線輸送量もマイナス幅が縮小し同5~6割減程度。航空各社は12月以降、国際線需要の回復を見据えて運航便数の増加を計画している。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況

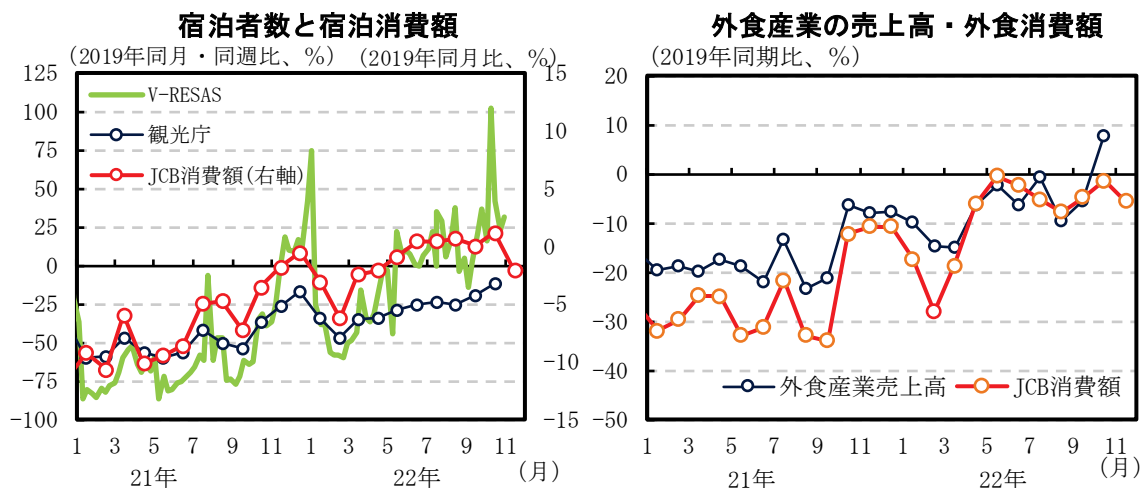


(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。22年11月の山陽と北陸は14日、東海は24日、九州は27日まで。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】 10月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は感染拡大前である2019年同月比▲12%と、前月からマイナス幅が縮小。V-RESAS（宿泊開始日ベース）で見ても月前半にかけて宿泊者数が増加。全国旅行支援の開始による影響とみられる。11月のJCB宿泊消費額は同▲2.1%。
- ◆【外食】 10月の外食産業の売上高は感染拡大前である2019年同期比+8%。Go To Eat事業などの需要喚起策の効果に加え、価格改定による客単価の上昇も増収に寄与。11月のJCB外食消費額は同▲5.5%。

図表7：国内宿泊者数／外食産業の売上高

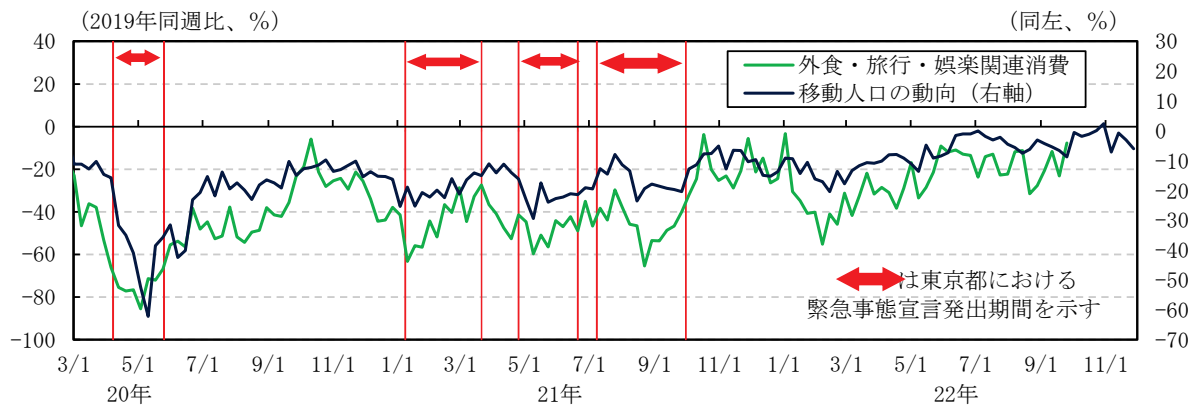


(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。22年11月のJCB消費額は11月前半データをもとに伸び率を推計。観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベースの宿泊者数のデータを用いている。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESAS、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

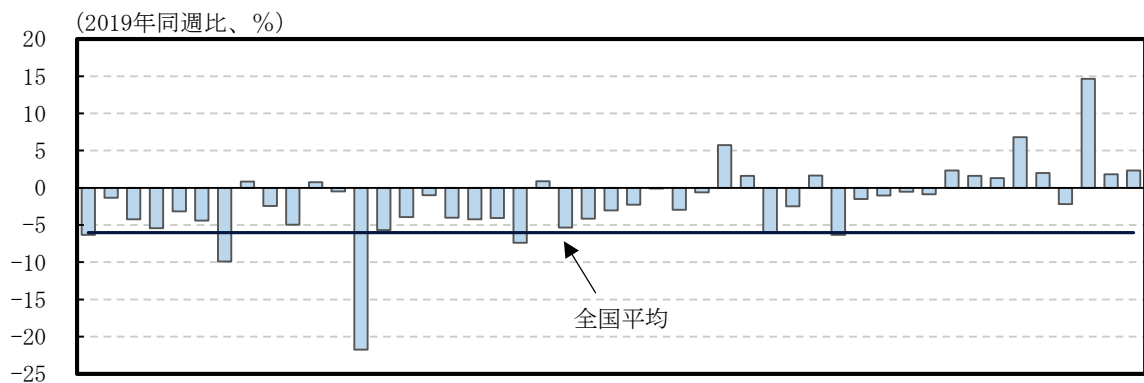
図表 8-1：移動人口の動向（直近値 11/27）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) 移動人口は全ての市区町村の「推定居住地が市区町村外のもの」の人口を週ごとに集計したもの。
外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

(出所) 総務省統計、V-RESASより大和総研作成

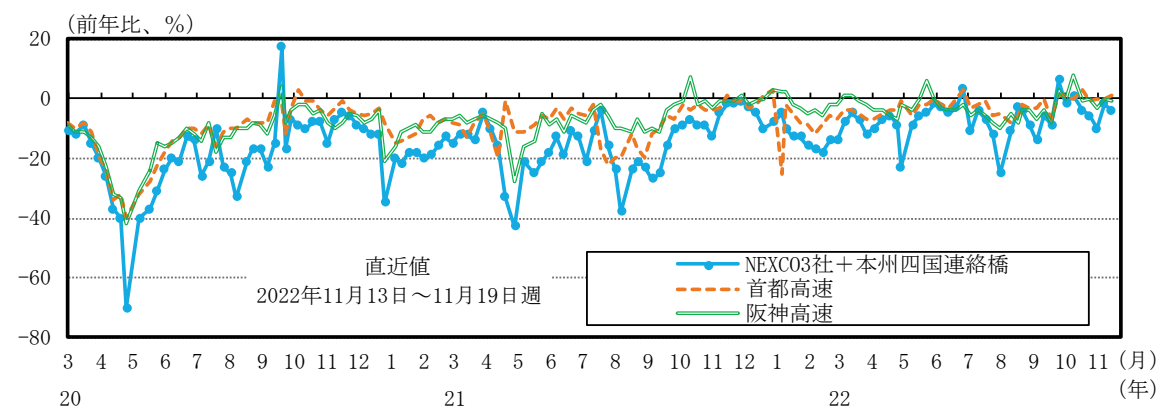
図表 8-2：移動人口の動向（11/21～11/27 週、都道府県別）



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
海森手城田形島城木馬玉葉京奈瀧山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄
道 川 山 島

(出所) V-RESASより大和総研作成

図表 9：高速道路交通量

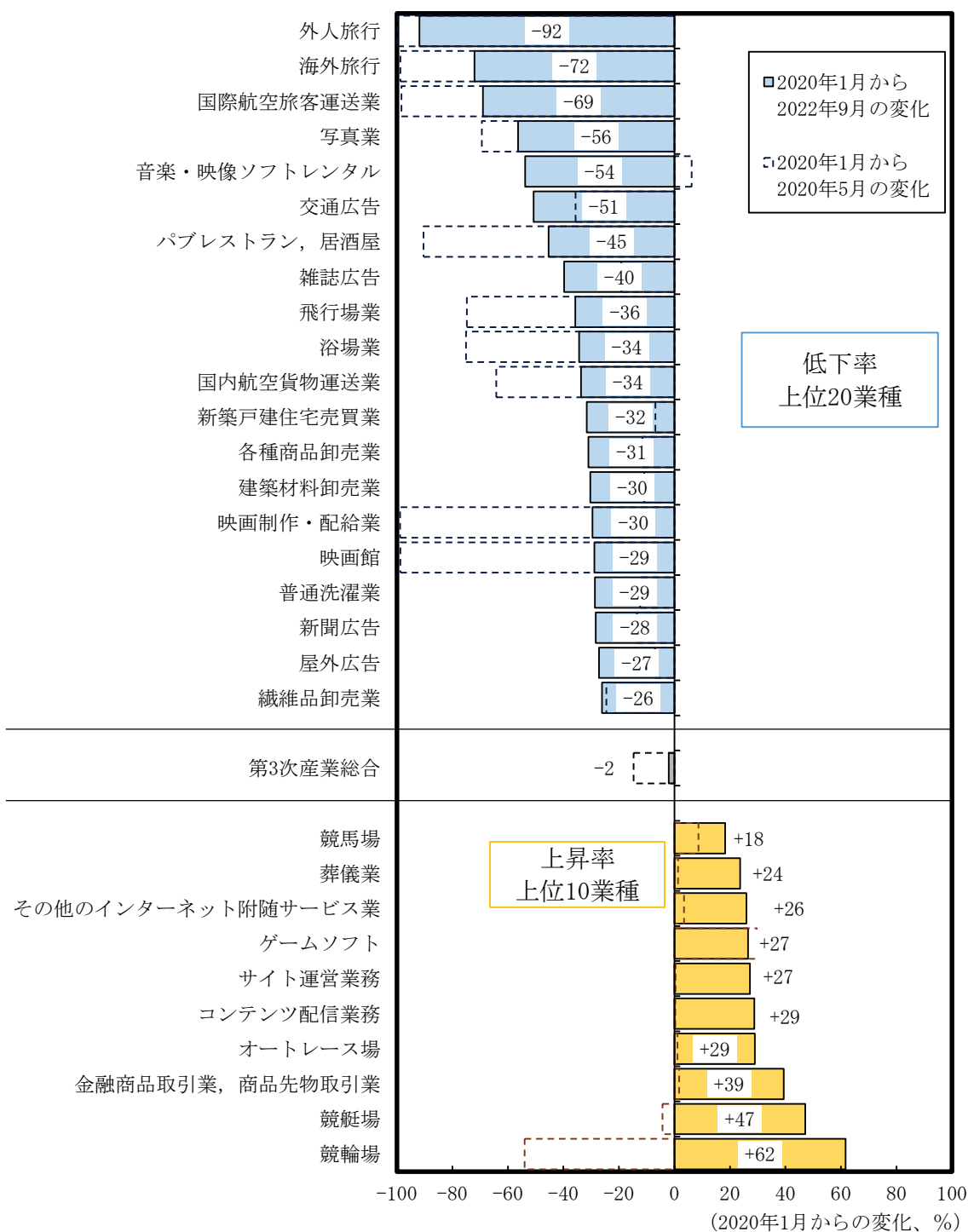


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

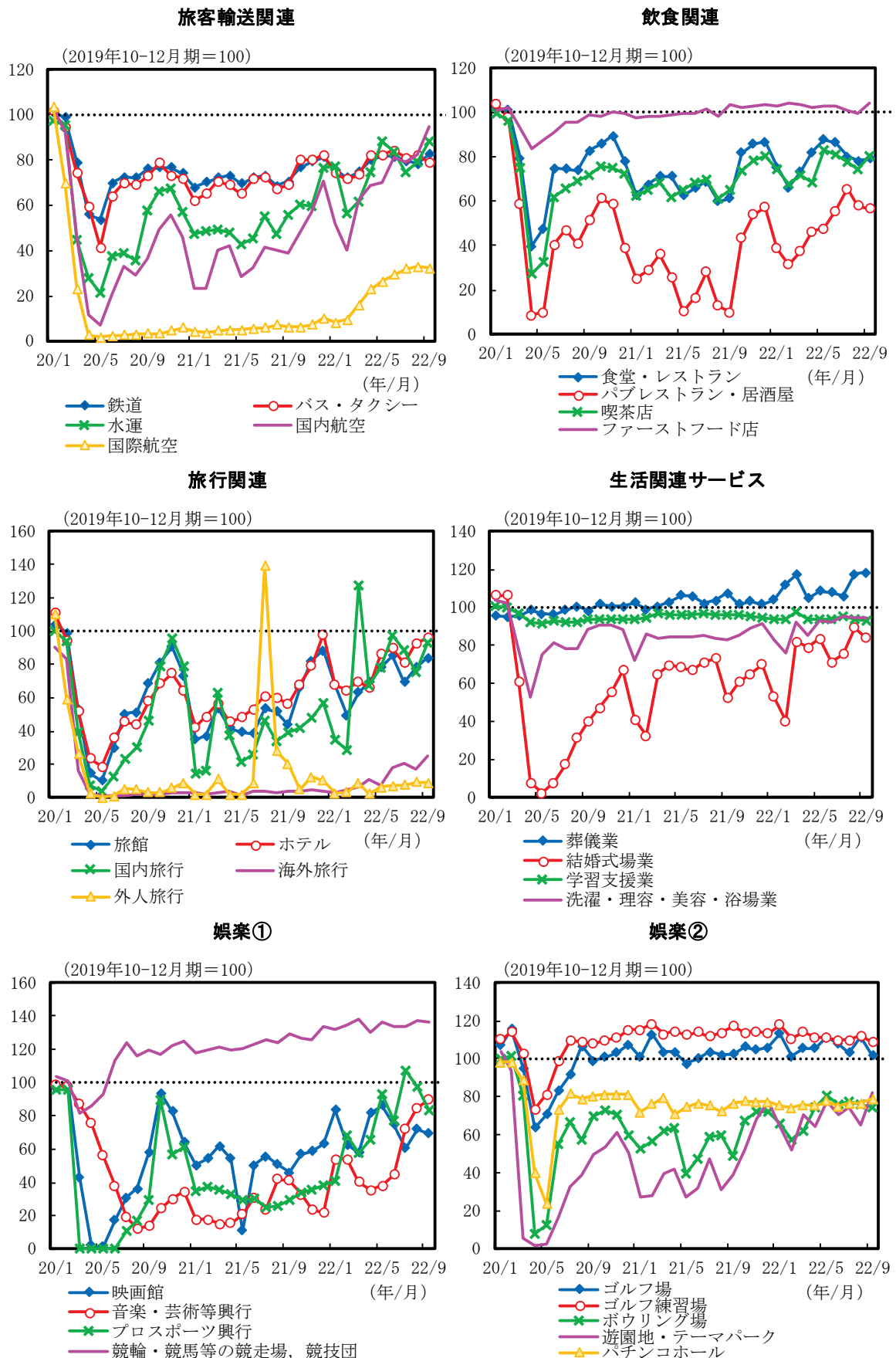
図表 10-1：第3次産業活動指数（2022年9月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年9月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 10-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成